

検査目的

心臓、肺、筋肉を含めた予備能力を測定し、心不全の程度を評価する。
体に大きな負担をかけずに安心して取り組める運動の程度を調べる。



きつい運動は体に負担をかけます。また軽すぎる運動は体に効果が期待できません。心肺運動負荷検査は、最大どこまでがんばれたかを評価し、負担無く、安全に効率のよい運動量を知る事ができます。

検査方法

臨床検査技師と医師立ち合いの下で行います。

検査時に4つのモニターを装着し、自転車で運動負荷を行います。

- ① 心電図計：胸に電極を装着し心拍数と心電図波形の変化を評価します。
- ② 血圧計：腕にカフを巻き血圧の変化を評価します。
- ③ SPO2 測定機：指にセンサーを装着し体内の酸素飽和度を評価します。
- ④ 呼気ガス分析装置：鼻と口を覆うマスクを装着し、体内の酸素と二酸化炭素の変化を評価します。

運動負荷(ペダルの重さ)の強さは患者様の状態から医師が判断し設定します。

運動時は自転車のペダルを少しずつ重くし、維持できなくなった時点で運動が終了します。

運動後、心拍数、心電図波形、血圧、呼吸が安全な状態になるまで観察します。

検査時間：30~40分



検査時の注意事項

- ・ 絶食ではありません。
※極端な空腹状態は避けて、検査開始 2 時間前までに軽く済ませて下さい。
- ・ 運動しやすい服装でお越しください。
※不可な服装:和服、ワンピース、タイトスカート、細身のズボンなど
- ・ アルコールアレルギーの方は事前にお知らせください。
- ・ 検査中にトイレには行けませんので、事前に済ませてください。

対象となる病気

- ・ 心臓に病気のある方（心筋梗塞後、慢性心不全、狭心症、開心術後など）
- ・ 動脈血管に病気がある方（間欠性跛行など）
- ・ 肺の病気や呼吸機能が低下している方
- ・ 運動にあたり運動強度・負荷が必要な方

検査の危険性・中止基準

- ・ 熱や咳など風邪症状
- ・ 胸痛、呼吸苦、下肢疲労
- ・ 失調、めまい、冷汗
- ・ 異常な血圧上昇
- ・ 心電図異常:重症な不整脈、虚血性 ST-T 変化、頻脈、徐脈
- ・ 本人の要望



心肺運動負荷検査は、

- ① 医師から適切な運動処方が作成されます。
- ② 運動療法を行う際の最適な運動強度を知ることができる有用な検査方法です。
- ③ 日常生活での心不全再発予防に繋がり、生活改善にも役立ちます。